

高温に対応した管理の徹底を！

- 気象予報では今後も **平年より高温になる**と予想されています。
- **基肥一発体系でも葉色が淡い場合は追肥**を施用しましょう。
- 出穂前後各3週間は **常時湛水管理**を行いましょ。
- 最新の防除情報等を参考に **適切な病害虫防除**を実施しましょう。

1 収量・品質向上のため基肥一発体系でも追肥を検討しましょう

判断基準（「コシヒカリ」60株/坪植えの場合）

- ・ 出穂11日前頃までの **葉色が淡い**（葉色板4（SPAD値で36）以下）
- ・ 幼穂形成期の **茎数が多い**（25本/株以上）

施用時期

出穂11日前～4日前

施用量

窒素成分1～2kg/10a

- ※ 環境こだわり農産物では合計化学肥料窒素成分4kg/10a以内を順守してください。
- ※ 追肥時期が遅れると食味が低下するため注意しましょう。
- ※ いもち病や倒伏の発生が懸念されるほ場では施用しません。

2 適正な水管理を実践しましょう

- ・ 出穂前後各3週間は **3～5cmの浅水での常時湛水管理**を行いましょ。
- ・ 湛水管理は白未熟粒や胴割粒の発生防止、カドミウム吸収抑制に有効です。
- ・ すでに梅雨明けとなっていることから、**必要以上の取水にならないよう、適切な用水利用に努めましょ。**

3 斑点米カメムシ類の発生に注意しましょ

- ・ 梅雨明けが早く、高温少雨条件でカメムシの活動は活発となります。
- ・ 斑点米カメムシ類は、ヒエ等のイネ科雑草の穂を好み、畦畔に集まります。そのため、イネの出穂2～3週間前と出穂期に2回草刈りを行い、イネ科雑草の出穂を抑制してカメムシ類を寄せ付けないようにしましょ。
- ・ 周辺ほ場より出穂が早いほ場、または遅いほ場で被害が大きくなる傾向があります。
- ・ カメムシの種類や使用する薬剤によって散布適期が異なるため注意しましょ。

※スタークル粒剤 ： 散布適期 穂揃期頃
 ※スタークル粉剤・液剤 ： 散布適期 出穂後 7～10日
 （「スタークル」は本田3回まで、収穫7日前まで）

主な斑点米カメムシ類



アカスジ
カスミカメ



ホソハリ
カメムシ



ミナミアオ
カメムシ

※上の写真のような斑点米カメムシが確認された場合は、出穂後7～10日後ごろに防除しましょう。

イネカメムシの発生地域について



イネカメム

- ・近年、イネカメムシ（写真左）が各地で確認されています。
- ・イネカメムシが発生しているところでは、出穂期と乳熟期に2回防除を行うと防除効果が高くなります。
※乳熟期（出穂期＋8日頃）

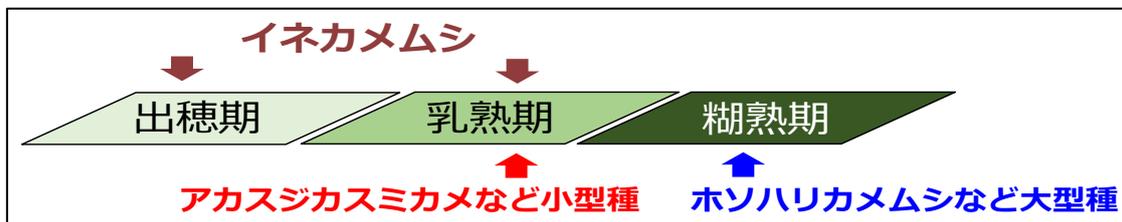


図 斑点米カメムシの防除時期



熱中症にご注意ください！！

予防のポイント

①暑い時間帯の作業を避ける

②こまめな休憩と水分補給

③単独作業を避ける

④熱中症対策アイテムの活用